

困難女性つながりサポート事業【神奈川県】

個別事業費	36,767千円
交付金額	11,250千円

地域の実情と課題

女性の就労機会の減少の状況は深刻であり、社会的に孤立した女性を早期に見つけ出して適切な支援につなげることが引き続き急務とされている。

これまで多くの女性からの相談を受けてきたが、既存の相談窓口の相談記録から、その多くは複合的な課題を抱え自立までに時間がかかり、手厚い支援を必要としているため継続的に相談対応を行う必要がある。

目的・目標

- 居場所の提供や訪問支援等により、適切な行政窓口や民間団体につなげるとともに、女性相談従事者のスキルアップを行う。
- 同行支援件数
〔目標〕50件 〔実績〕52件
 - 女性からの相談受付件数
〔目標〕4,000件 〔実績〕5,527件

事業の特徴

- ①相談支援事業
受託者がアウトリーチ(訪問支援)等を実施、潜在的な支援対象者を見つけ出すとともに、対象者それぞれの課題の切り分けを行った上で支援計画を作成、適切な行政窓口や民間団体に同行支援を行った。また、生活必需品(生理用品等)の提供を行うとともに、支援スタッフや他の当事者をつながりが持てる居場所の提供を行った。
- ②人材育成事業
生活困窮や社会から孤立した女性への支援経験のあるスタッフが、県及び市町村の女性相談員、他の民間団体の支援従事者に対し、支援事例の共有や相談者への援助技術の向上を目的とした研修を実施し、スキルアップを図った。

連携団体

- ・(一社)インクルージョンネットかながわ【受託団体】
- ・かながわ生活困窮者自立支援ネットワーク 各所属団体
- ・市町村の女性支援・生活保護担当課
- ・ハローワーク、マザーズハローワーク 等

事業の効果

相談者にとって、他人事ではなく自分事として考えてくれる相談支援員の存在は大きく、当事者目線の分かる経験豊富な相談支援員が、数多くの女性の自立や生活再建を支えている。

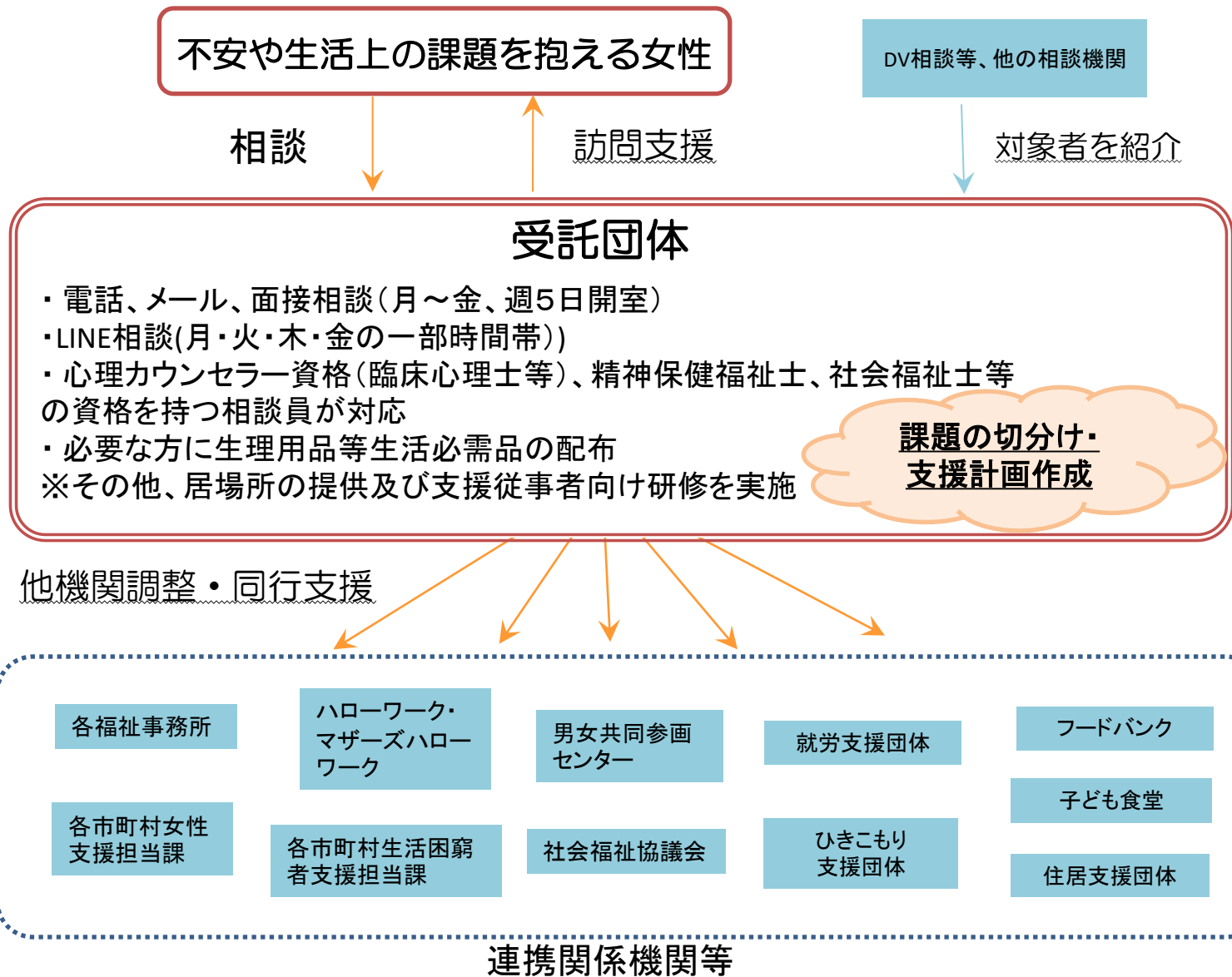
○アンケートで相談が役にたったと評価した割合
〔実績〕80.9%

今後の課題

近年最も顕著に増えた相談は、精神的な課題を抱えた女性たちからの相談である。特徴として非通知・匿名が多く、相談の内容は多岐にわたり、相談者の特性の影響もあり、問題そのものに焦点をあてて会話することが難しい。そのため、相談者自身も何が問題の本質か理解していない場合も多く、相談支援員が時間をかけて丁寧に話を聞き続けることで信頼関係を築き、相談者が抱えている問題を解き明かし、相談者に寄り添いながら一緒に課題を整理し、解決策を考えなければならないため、相談支援員のマンパワーが必要である。

また、若年層が相談しやすい体制づくりとして、SNSを活用した相談方法の拡充等及び周知広報に力を入れていく必要がある。

○ 困難女性つながりサポート事業の概要



○ 困難女性つながりサポート事業の概要【ポンチ絵】

複合的な困難を抱える女性に対応するため、民間支援団体の知見を活用し、**困難を抱える女性の早期発見から相談、専門相談窓口への付き添い等、課題解決に向けて、寄り添った支援を実施**する。

相談から付き添いまで、必要な支援につなげる女性のための総合相談窓口を設置

アウトリーチ



相談に至っていない方の
早期発見

私はどこかに相談していいの？
でも、どこに何をどうやって？
そもそも何が問題だろう…？



同行



行政窓口、専門機関の
相談に**同行**

相談

電話、メール、SNS、
面接、広い間口で対応



課題の切分け



相談者の課題を切り分けて整理
した上で、支援メニューを作成

居場所の提供



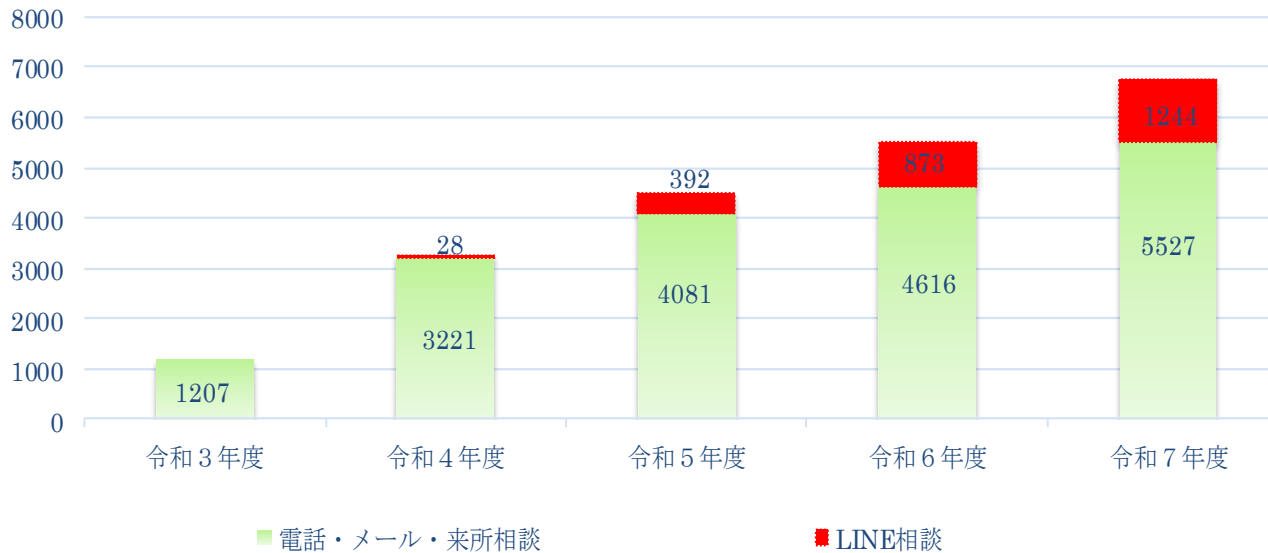
支援者や他の当事者とな
がりが持てる居場所を提供

各種施策に基づく専門相談（支援）へ

○ かながわ女性の不安・困りごと相談室

「かながわ女性の不安・困りごと相談室(かながわ女性相談室)」を設置し、県内の不安や生活上の課題を抱える女性から、多くの相談を受け付けた。

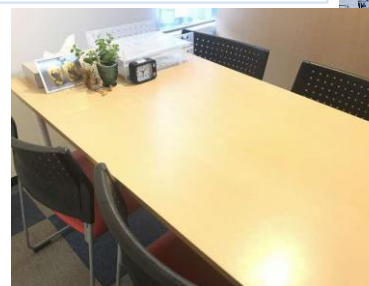
不安や課題を抱える女性からの
相談件数の推移(令和3年8月～)



相談室チラシ



居場所の様子



相談室の様子